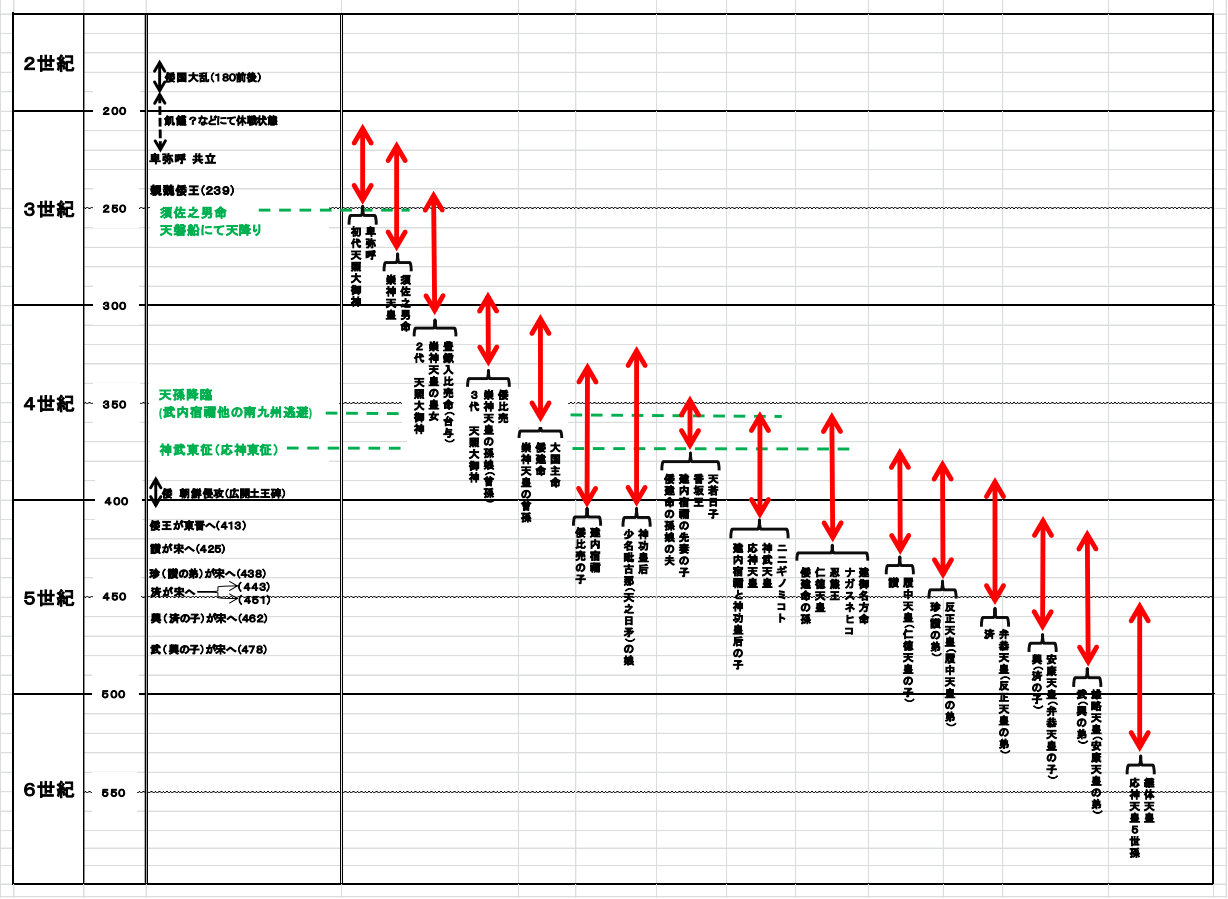
いくつかの古代妄想

桑田昭弘（中四国支部）

１．人々の生没年

筆者が昨年投稿した「日本の始まり」にて 人と人との繋がり、歴史の連続性、そして理にかなっているか　を確かめる為に記載人物の凡その出生年及び没年を筆者の妄想にて下記図表にしてみた。



補足１．卑弥呼共立は、後漢が滅亡し「本来の漢委奴国王」と「新たな漢委奴国王」が敵対する意味合いが消滅した２２０年過ぎ。

補足２．神武東征（応神東征）は、童話の桃太郎から推測すると申年（３７２年）、酉年（３７３年）、戌年（３７４年）の３年間。

補足３．古事記の新羅遠征と広開土王碑から神功皇后と武内宿禰は４世紀末頃まで生存。

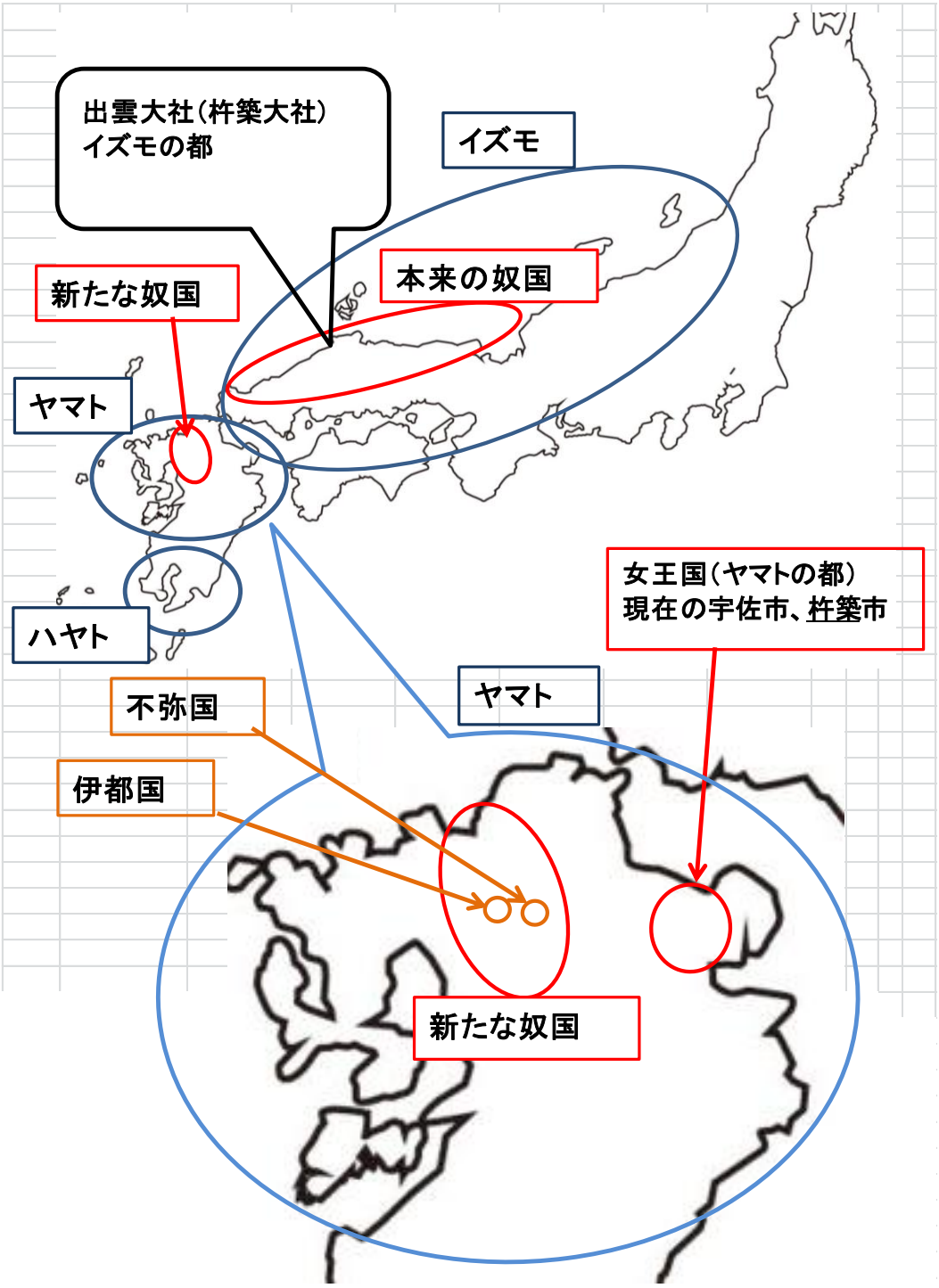
２．新羅遠征

古事記にて神功皇后が突如神懸かり、そして新羅遠征を指示する。

筆者が邪馬台国新聞に記した「国引き神話」の中で神功皇后の父親は天之日矛（少名毗古那）であるとした。神功皇后は、新羅を追われた父親の意思を継ぎ新羅王を奪還せんと新羅遠征をしたのか。

３．３世紀の倭国

筆者の考える３世紀中（卑弥呼共立後）の主な国、及び勢力地域を作成してみた。



出雲大社のある地域を古代は杵築と呼んでいた。卑弥呼は倭国大乱後に出雲から大分の杵築市、宇佐市辺りに来たのでは。

４．根の国

須佐之男命は、母（イザナミ）のいる「根の国」に行きたいと言った。この「根の国」は現在の出雲を中心とした地方と思われる。
倭人が「ネ（根)」の国と発音した国名を中国人は如何に聞き取り、如何なる漢字としたのだろうか。筆者の妄想は「奴（ナ)」であるが如何に。

５．方位

魏志倭人伝では行路途中の国々への方位（東西南北）が記載されている。この方位は次の目的国の方位を指しているのだろうか。
数十キロ先ならば案内人に聞いた次の目的国の方位は分かるかもしれないが、「水行２０日」や「水行１０日陸行１か月」にて到達する次の目的国の方位がわかるものだろうか。地図があれば容易く分かると思われるが、３世紀に倭国の地図はあったのだろうか。

６．倭国への行路にて記載する国と記載ない国

倭国への行路途中の国々は何を基準に記載しているのだろうか。
最終目的国へ到達する為の行路順を記載するなら「行路の分岐点等の国（渡海の為の出港或いは着港する国)」と「最終目的国」そして「途中で立ち寄る必要のある国（伊都国)」ぐらいか。
不弥国を経由地として邪馬台国までの行路とするなら奴国、不弥国、投馬国は何故記載されているのだろうか。
奴国、投馬国は行路途中の大きな国だから？
不弥国は港町？
伊都国に行く為に不弥国より遠い末盧国へ着港？
不弥国で倭船に乗換？
「水行１０日」後に着港した国は何故記載しない？

などなど徒然なるままに妄想が膨らむ。